

令和8年3月定例会議

# 一般質問通告書

宮古市議会

令和8年3月定例会議 一般質問通告一覧表

(質問順)

質問月日	質問者	質問事項	
2月27日 (金曜日)	12番 小島 直也 議員 (公明党)	1 非核三原則を根本に平和思想を広げる運動について 2 多文化共生の推進について	P1 P2
	15番 高橋 秀正 議員 (みやこ未来創造クラブ)	1 経営方針について	P3
	21番 竹花 邦彦 議員 (立憲・市民クラブ)	1 令和8年度宮古市経営方針について 2 東日本大震災被災者の「こころのケア等」支援継続について	P4 P5
	19番 松本 尚美 議員 (無所属クラブ)	1 令和8年度宮古市経営方針について 2 合併の検証と地域内分権について 3 公共交通空白地区の解消について	P6 P7 P7
	11番 西村 昭二 議員 (みやこ未来創造クラブ)	1 外国人材受入れ支援制度構築について	P8
3月2日 (月曜日)	18番 落合 久三 議員 (日本共産党)	1 多様な産業が結びつき力強く活動するまちづくりと地域産業の振興 における強くしなやかな産業について 2 つくり育てる漁業について 3 ひと・地域を育てる環境の充実について	P10 P11 P11
	3番 水木 高志 議員 (みやこ未来推進クラブ)	1 「森・川・海」とひととの共生の着実な展開について	P12

3月2日 (月曜日)	9番 白石 雅一 議員 (みやこ未来推進クラブ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 これからの協働について</li> <li>2 廃校活用について</li> <li>3 里親制度について</li> <li>4 豊かな心をはぐくむ教育について</li> <li>5 カッターレースによるスポーツ・レクリエーションの振興について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P13</li> <li>P13</li> <li>P14</li> <li>P14</li> <li>P14</li> </ul>
	20番 田中 尚 議員 (日本共産党)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 新年度、本市の経営方針について</li> </ul>	P15

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月27日(金) 質問順位 1番

質問者 議席番号 12番 小島 直也 議員

質問事項	質 問 要 旨
<p>1 非核三原則を根本に平和思想を広げる運動について</p>	<p>衆議院選挙が終わって落ち着いた生活が行われることを願う中で、多くの国民から信任を得た与党の政策に、一抹の不安を抱く市民の方々がいます。解散前の国会質疑の中で高市総理が非核三原則の堅持を明言しないことに、国民が不安を感じているのだと思います。</p> <p>市長の経営方針に記されているように、子どもたちに希望あふれる未来を永遠に残すためには、国是である非核三原則を方針に盛り込む必要があるのではないかと考えます。地域住民の幸福も豊かな社会も、その前提にあるのは平和な社会に他ならないと思います。宮古市は平成18年に非核平和都市宣言を行っております。今一度このことについて市民全体で認識を新たに、様々な機会を通し内外に核兵器のない世界平和に向かう強い意志を発信すべきと考え次のおり質問いたします。</p> <p>① 戦後80年を生きてこられた方々の平和への想いを表す機会の創出について、考えていることはあるか。</p> <p>② 海外に目を向ければ人間の生命尊厳からかけ離れた不幸が現実にはある。この様な惨状に心を寄せて、ともに考える平和教育の必要性はないものか。本市の今後の平和教育の方向性は。</p> <p>③ 市で行う戦没者追悼式に児童生徒の参加を提言した経緯はあるが、中学生を対象に被爆地である広島市の訪問学習を行うことで、平和教育の大切さを再認識できると思うがどうか。</p> <p>④ 戦後80年間、平和国家として世界中から認められ讃嘆に値されている我が国を、宮古港に寄港する観光客にアピールすることで、今後の安全な観光先として選ばれる国やまちになると考えるがどうか。</p> <p>⑤ 市民へのアンケート調査の際に、非核平和都市宣言について尋ねることも必要だと思うがどうか。</p>

2 多文化共生  
の推進について

時代の変化が著しい現代において、あらゆる分野で包摂が重んじられています。多文化共生社会への挑戦は必然と考えます。

令和8年度から新しい計画期間に入る「男女共同参画基本計画」では性別、年齢、国籍などに関係なく、誰もが互いの存在を認め合い、「生きづらさ」を感じることなく、多様な人材が自己を表現できるまちを目指す取り組みを進めるとしています。市長の経営方針の結びでは、寛容に、協調し、市民の皆様が一つでも多くの幸せを享受できるよう、子どもたちに希望あふれる未来が残せるよう、誠実に、着実に、そして前向きに取り組むと決意されています。100%賛同いたします。

そんな中、去年、本年と行われた国政選挙などで「排外主義」「日本人ファースト」など、分断を煽るような言葉などが連呼されて、多様性を踏みにじるような動きがありました。世界でも自国の利益に固執して、他を顧みることを忘れたような独裁者がいます。世の中の動きに対して短絡的な発想で、人々から幸福になる権利を奪わんとする蛮行であると私は感じております。これからの本市では先細りする就労者を外国人に頼るときが来ると思われます。そのようなことを踏まえて質問いたします。

- ① 育成就労制度の導入により、増加が見込まれる外国人材の受け入れに際し、支援を必要としている企業を把握しているか。また、受け入れにあたってのノウハウや技術指導には、どのような支援体制や仕組みが構築されているか。
- ② 日本語を全く話すことができない外国人の人数は。また、その中に不就学児童はいるか。
- ③ 多文化共生を推進するにあたり本市の課題は何か。
- ④ 国際交流協会に委託している国際理解活動等の事業について、今後の課題は何か。
- ⑤ 外国人の孤立を防ぐための国際交流に関する町内会への支援制度は整備されているか。
- ⑥ 災害時において、外国人に対する支援体制に課題はあるか。

## 一般質問通告書

質問月日 2月27日(金) 質問順位 2番

質問者 議席番号 15番 高橋 秀正議員

質問事項	質問要旨
1 経営方針について	<p>中村市長は、所信表明で「市民の挑戦をサポートし、未来を創るための土台を進めていく」と述べました。</p> <p>今定例会議に提案があった令和8年度一般会計当初予算案等は、大変大事なことであると認識しております。</p> <p>本市は15年前の東日本大震災以降、少子高齢化が急激に加速し、人口は4万4千人まで減りました。一般住宅の空き家もかなり増えました。</p> <p>若い労働力が不足している状況で新規の事業を行うことは難しいと考えることから、次のことについて市長の見解を伺います。</p> <p>① 旧キャトル跡地を含めた宮古駅前エリア再整備は、本市の人口減少を考えると本当に必要か疑問であり、本市の財政状況を含め不安であるが、どのように考えるか。</p> <p>② 宮古短大横の工業用地等の整備は、業者も決まらない状態が続いている。金浜の工業用地も未だ具体案がない。企業誘致は難しいと考えるが、いかがか。</p> <p>③ 道路事業は、市内中心部より離れた地域を重要視して舗装工事を行っているが、中心部の方が必要な個所が多いのではないかと考えるが、どうか。</p> <p>④ 上水道事業は、管網計算を設計業者と連携して進めるべきと考えるが、いかがか。</p>

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月27日(金) 質問順位 3番

質問者 議席番号 21番 竹花 邦彦議員

質問事項	質 問 要 旨
1 令和8年度宮古市経営方針について	<p>中村市長が令和8年度宮古市経営方針に掲げた5つの重点施策のうち次の課題について伺う。</p> <p>(1) 地域産業の振興について</p> <p>① 中村市長は市長就任後の所信表明で、地域産業の振興を図るために、モノを生みだす環境づくり、事業者の挑戦を後押しする施策を推進するとした。これに係る私の9月定例会議一般質問の答弁では、市内事業者・企業がモノを生みだしやすい環境づくりに向けて、事業者の現況や課題を把握し、後押しする支援を検討の上、実行に移すと述べた。市長は就任以降、市内事業者・企業に足を運び、現況と課題等の把握に努めてきたと認識する。そこで、市内事業者等の現況と課題等をどう整理されているか伺う。また、それを踏まえ、新年度で取り組もうとする「後押しする支援」施策は何か。</p> <p>② 災害に強い新たな産業用地整備に向け、宮古短大裏民間造成地の道路整備を進めるため、令和7年度補正予算で3,000万円の設計予算が、新年度予算案では3億円の整備予算が計上され、産業用地整備後の市内工業分野製造企業の立地が期待されている。また、令和7年度において2社の企業立地がなされ、新たに36名の新規雇用が生まれた。昨年1月に市が公表した県内外企業の立地意向調査(1,000社を対象。回答365社)では、立地可能性企業は極めて少数であったが、産業振興と雇用の拡大・創出は地域活力の源であり、若者の定着・定住、移住等にもつながり、企業の新規立地に向けた取り組み強化が一層求められる。市長は経営方針で、さらなる新規立地、既存企業の増設が図られるよう、継続して取り組むと述べられたが、今後の企業誘致等の取り組みへの考えを示されたい。</p> <p>③ 客船寄港による本市経済への波及効果は、令和6年度は10回の寄港で約1億2千万円の消費効果</p>

	<p>があったと市は分析している。令和7年度は16回の寄港であったが、本市の経済波及効果の分析結果はどうであったか。また、経済波及効果をより高めることが必要と考えるが、現状の課題点と消費効果を高めるための取り組みについて伺う。</p> <p>(2) 賑わいのある中心市街地形成について</p> <p>旧キャトル跡地整備事業は、低迷する中心市街地の賑わい創出への期待は大きい。しかし、先般、官民連携事業に主体的に関わる民間事業者が確保できないでいることや、空き店舗等の増大などの課題が浮き彫りになり、宮古駅前を含めたエリアでの整備見直し方針が示された。市は今後、公民連携による空き店舗等を活用した社会実験を展開するとともに、民間事業者を見出していくとの方向性を示している。</p> <p>については、社会実験の目的と想定している具体的な展開、取り組み内容を伺う。また、官民連携事業のパートナーとなる民間事業者の発掘、確保が事業構築のキーポイントになると考えるが、事業者の発掘、確保に向けた取り組みについて伺う。</p>
<p>2 東日本大震災被災者の「こころのケア等」支援継続について</p>	<p>国の「第2期復興・創生期間」が令和7年度で終了し、第3期の5年間は原子力災害被災地域を重点に、復興の取り組みが推進されるものと認識する。本市のハード面の最後の課題となっている閉伊川水門整備も令和8年度で完了予定である。震災復興の到達点をインフラ整備の進捗だけで測るのではなく、暮らしや生業の再建、こころのケアとコミュニティの再生の観点から検証することが重要と考える。その点で、被災者のこころのケア、相談支援等で重要な役割を果たしてきた国の被災者支援総合交付金の継続が求められてきたが、本年度で廃止されることに遺憾の意を表す。</p> <p>については、市として、被災者の「こころ」のケアや高齢化等に伴う多様な相談支援を今後も維持、継続していくべきと考えるがどうか。</p>

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月27日(金) 質問順位 4番

質問者 議席番号 19番 松本 尚美議員

質問事項	質 問 要 旨
1 令和8年度宮古市経営方針について	<p>中村市長就任後初めての経営方針が示されました。全体的には本市の現状を踏まえ、ネガティブで無く、ポジティブに捉えての経営方針と思ひ評価をしますが、市内中小零細事業者の事業継続、地域経済の縮小、市民の暮らし、地域消滅、少子高齢化の加速による人口減少の現状認識と危機感が感じられません。行政だけでなく、宮古市全体の経営者として、実効性ある総合計画の実施、展開に挑戦し、実績と結果を期待する事から下記の点について伺います。</p> <p>① 市内経済、地元事業者、地域、市民の暮らし、少子高齢化の進行の現状認識と総合計画の着実な進行で改善出来ると考えるか。</p> <p>② 「永続的で持続可能な農林水産業の推進」とあるが、現状の振興施策で再生出来ると考えているか。</p> <p>③ 「若者の発想と新しい風を取り入れ、多様な価値を活かした新しい宮古市を皆で創る」とあるが、具体的な施策は。</p> <p>④ 「健やかで心豊かな人を育むまちづくり」の中で「地域に暮らす人々が健やかに、そして心豊かに生活する環境整備は不可欠」とあるが、不可欠とする環境整備の具体的内容は。</p> <p>⑤ 令和7年度の実績として2社の立地で36人の新規雇用が生まれたと報告があり、市長のトップセールスの成果として評価するとともに、官民連携とはいえ産業用地の確保に目処が立ったのは大いに評価する。一方で市内事業者の倒産も続き雇用の場の更なる確保、課題となっている若年女性の雇用の場の確保、情報通信事業者も含めた新規の企業立地、既存企業の増設も含め新年度の見通しについて伺う。併せて既存の立地助成制度の拡充についての所見を伺う。</p>

	<p>⑥ 「賑わいのある中心市街地の形成」で旧キャトル、民間駐車場、旧セキカワ、立体駐車場エリアを組合方式での再開発事業は断念し、宮古駅、バスターミナル、イベント広場を含めたエリアに拡大して再整備すると方向転換した。方向転換はやむなしと考えるが、旧キャトル跡地と宮古駅とイベント広場のみにエリアを限定すべきと考える。市長の所見は。</p>
<p>2 合併の検証と地域内分権について</p>	<p>平成 30 年に消滅可能集落、地区の活力継続、活性化の一助の施策として合併の検証を前提に総合事務所の強化、地域内分権の検討と実施を一般質問で提言したが、「市全体が等しく発展することが重要であるとの認識のもと市全体としての計画を策定し一体的に取り組む」と前任の山本市長は否定した。地区、地域住民から合併しない方が良かった、予算も減らされて地域の事業が出来ない、役場が縮小されていた、学校、保育所が無くなってしまふ、見放された、働く場所もなく若い人が激減して空き家だらけだとの声を聞く。現状の取り組みで地域が活性化するのか、持続可能な地域になると考えるのか、市長の所見を伺う。</p>
<p>3 公共交通空白地区の解消について</p>	<p>川井、新里、田老の三地区が優先され、宮古地区の解消は進んでいない。宮古地区も順次進むものと思っていたが進まず、議会から強く地区要望を伝えた結果、2月17日の総務常任委員会で崎山の箱石地区のデマンドタクシー導入案が説明された。この他にも導入が必要な地区はまだある。所管課において把握されていると思うが今後の導入について要望が無くともアウトリーチ、支援が必要な人を早期に見つけ、支援につなげる取り組みが必要である。通院、買い物等の移動手段に困っている、移動に高額な負担を負う市民は少なからずいる。わがままと考え、声を出せずに我慢を強いられている市民が少なからずいる。「誰一人取り残さない」と前任市長は標榜していたが、公平に手が差し伸べられていなかった。市長の所見を伺う。</p>

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 2月27日(金) 質問順位 5番

質問者 議席番号 11番 西村 昭二議員

質問事項	質 問 要 旨
1 外国人材受入れ支援制度構築について	<p>市内中小企業では、ハローワーク等に求人を出しても人材確保が難しい現状があり、よく耳にする介護分野だけでなく製造業においても、生産能力の維持・向上のため人材確保が急務である。外国人材の雇用・受入れは有効策だが、受入れ後に毎月発生する費用や初期費用が大きな負担となり、導入の妨げとなっている。</p> <p>市は、令和8年度経営方針に示されている、国籍等に関係なく多様な人材が自己を表現できるまちを目指すとしており、特別養護老人ホームでの外国人材受入れを宮古市国際交流協会・地域と連携して支援した実績もある。これを踏まえ、産業横断で受入れを進める制度（助成＋定着支援）の構築について伺う。</p> <p>① 人手不足の現状と産業横断の課題認識について 介護・製造業等の人手不足の実態（求人充足、生産・サービス提供への影響）を市はどう把握して、外国人材受入れの障壁（費用、住居、生活支援、日本語、相談体制等）を産業横断でどう整理しているか。</p> <p>② ワンストップ支援体制の構築について 宮古市国際交流協会・地域連携による受入れ支援の実績があるが、事業者の負担軽減のため、受入れ相談から定着までを支援するワンストップ窓口（市＋関係機関の連携体制）を整備できないか。</p> <p>③ 費用助成（初期費用・月額費用）を含む「受入れ支援パッケージ」について 初期費用助成（手続・研修・住居準備等）や月額費用助成（支援委託、生活支援、住居関連等）を、</p>

介護・製造業等の中小企業にも適用できる制度として創設できないか。
----------------------------------

## 一般質問通告書

質問月日 3月2日(月) 質問順位 1番

質問者 議席番号 18番 落合 久三議員

質問事項	質問要旨
1 多様な産業が結びつき力強く活動するまちづくりと地域産業の振興における強くしなやかな産業について	<p>市長の経営方針の中で「強くしなやかな産業構造の構築」や「自立的な地域経済の創出」が掲げられたが、第一にこの言わんとするポイントを伺う。</p> <p>第二に、建設業・建築業の振興について、宮古市の建設業は事業所数 201 か所（令和 6 年版宮古市の統計）、従業員数 1,971 人（〃）、売上金額は製造業、卸小売業に次いで三番目の 395 億円（〃）と文字通り地域経済をけん引する産業と言える。</p> <p>しかし、昨今の物価資材の高騰と需要の減少、深刻な人手不足と技術者の高齢化などから急速な経営悪化が進んでいる。こうした状況からの打開は一義的には、企業自身の営業・経営努力に負うべきではある。一方、本市の地域経済を支える要の一つであることから、過日、市は、国の経済対策に対応して「住宅新築・リフォーム支援事業」を提案し議会はそれを議決した。これらの実行を見据えながら、建設業が抱える人材不足解消、技術者育成、業務効率化のために市として国家資格取得の一助となる研修会の開催などを検討すべきと思うがどうか。</p>

<p>2 つくり育てる漁業について</p>	<p>「つくり育てる漁業」の中で、わかめ、昆布の養殖業は、大きな比重を占めている。</p> <p>岩手県の養殖わかめ、昆布の生産額は日本一であり、その主な生産地は宮古である。養殖わかめ、昆布を合わせた生産数量は年 7,000 トン前後、金額では 20 億円前後であり、魚市場への魚の水揚げ金額と比較しても多い。</p> <p>しかし、担い手の高齢化が進み、養殖資材の高騰も加わり、このままではこの 3～5 年で担い手不足が加速する。また「空いた区画」を活用しようにも資材高騰で二の足を踏む状況である。</p> <p>本市はこれまで、養殖の共済掛金の助成を 7%から 30%へ引き上げてきた。これを踏まえ、養殖資材への助成も検討すべき時期だと思うがどうか。</p>
<p>3 ひと・地域を育てる環境の充実について</p>	<p>国は、社会保障推進協議会などの反対を押し切り令和 8 年度から「こども・子育て支援金」の施行を始める。本市の子育てに関する支援は、国よりも早く、また県内市町村に先駆けて実施してきた。民間を含めた保育料の無償化、学校給食費の無償化、18 歳以下のこども・児童生徒等の医療費の窓口負担の無償化、国民健康保険税のこども均等割りの無償化がその代表例である。しかしながら、こうした施策がこどもの出生率の向上や少子化に大きく寄与しているとは言い難い。このような経済的支援施策のみで出生率の向上や若者の地元定着に直ちに反映されるものではないが、なぜ直結していないかを分析することはきわめて重要である。</p> <p>問題は、こうした施策があることを「知らなかった」「ほとんど実感しない」という声に代表される状況を克服する必要があると思う。</p> <p>この「乖離した状況」の克服を市長はどのように把握しているか所見を伺う。</p>

## 一般質問通告書

質問月日 3月2日(月) 質問順位 2番

質問者 議席番号 3番 水木 高志 議員

質問事項	質問要旨
1 「森・川・海」とひととの共生の着実な展開について	<p>令和8年度の経営方針で、総合計画の着実な推進「『森・川・海』と人が調和し共生する安らぎのまち」を実現するため、3つの方針を打ち出しました。そこで、「森・川・海」の環境を守る事を基本として、これらを生かしたまちづくりを進めていくとあります。また、教育行政方針でも、都市の将来像、その実現に向け「ひと・地域を育てる環境の充実」に資する取り組みを進めるとあります。</p> <p>そこで、「森・川・海」の展開の一つとして、新里に森の駅、川井に川の駅、そして海の駅としたような、3つのバランスのとれた関係規模展開を、既存のものを活かしつつ展開してはどうでしょうか。これは着実な推進であり、基本方針(1)(2)(3)の全てを助けるものであり、今後の新たな宮古市の展開に繋がるものとなります。他地域ではできず、「森・川・海」の要素がバランスよく入った本市だからできる事です。人の交流、経済、観光をも巻き込み、他分野にも波及させる事ができます。</p> <p>この可能性について市長はどのように考えますでしょうか。</p>

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月2日(月) 質問順位 3番

質問者 議席番号 9番 白石 雅一 議員

質問事項	質 問 要 旨
1 これからの協働について	<p>令和8年度宮古市経営方針のむすびに「行政は『水を運ぶ人』となり、誰かのために汗をかく存在として、市民の皆様の挑戦をサポートし、未来を創るための土台づくりを進める」とある。前段の「ひと、地域、事業者の未来へ向けた挑戦を後押しできるまち」という部分も含め、新たな事業展開を期待し、以下の点について伺う。</p> <p>① 「ひと・地域を育てる環境の充実」及び、「賑わいのある中心市街地の形成」で、協働について触れているが、市長が考えるこれらの「協働」は、従来の考え方と何が異なるのか。</p> <p>② 本市では、宮古市協働推進条例が制定されているが、協働事業を更に推進していくためにどのような施策を行っていくのか。</p>
2 廃校活用について	<p>経営方針では、今後さらに増加が見込まれる廃校の活用についての記載が無い。議会にも説明があり、現在パブリックコメントをおこなっている、宮古市公共施設再配置計画実施計画改訂(素案)においても、公用財産に変更となる以外の具体的な案はないが、廃校の現状と方針をどう考えるか。</p>
3 里親制度について	<p>経営方針のむすびでは、「寛容に、協調し、市民の皆様が一つでも多くの幸せを享受できるよう、子どもたちに希望あふれる未来が残せるよう、誠実に、着実に、そして前向きに取り組んでいく」とある。この一文には、「保護者の病気や貧困、虐待、離婚など様々な理由で、家庭で暮らせない子どもたち」も含まれているものとする。</p> <p>岩手県では令和7年4月から、県内に里親や里親家庭で養育される子どもを対象に相談・援助を行う児童福祉施設「里親支援センター」が開設された。</p>

	<p>本市においても、家庭で暮らせない子どもたちが安心して生活できるよう、そして希望あふれる未来に進めるよう、里親制度等を積極的に周知していくべきではないか。</p>
<p>4 豊かな心を育む教育について</p>	<p>令和8年度宮古市教育行政方針では、令和7年度までであった、『豊かな心』を育む教育の推進については、先人が築いてきた『ふるさと宮古』に誇りと愛着を持ち、復興、発展を支える人材を育成するための復興・防災教育に取り組んでいく」という表現が消え「学校教育の充実においては、学習指導要領において求められている資質・能力の育成に向けて、『確かな学力』『豊かな心』『健康な体』の調和のとれた生きる力を育む教育を推進していく」という表現に変更された。</p> <p>そこで以下の点について伺う。</p> <p>① 高等学校等就学支援金制度が、今までの所得制限無しの公立・私立支援に加え、令和8年度からはさらに私立高校の加算支援が拡充され、経済的に中学生の進学選択肢が広がる事となる。</p> <p>中学在学時から、将来設計をおこなう学生たちが、将来宮古に戻り、この地で暮らしていく気概を養っていくためには、『豊かな心』を育む教育の推進については、先人が築いてきた『ふるさと宮古』に誇りと愛着を持ち、復興、発展を支える人材を育成するための復興・防災教育に取り組んでいく」という表現は必要では無いかと考えるがどうか。</p> <p>② 今後の『ふるさと宮古』に誇りと愛着を持ち、復興、発展を支える人材を育成するための復興・防災教育」はどのような位置付けになっていくのか。</p>
<p>5 カッターレースによるスポーツ・レクリエーションの振興について</p>	<p>教育行政方針の「スポーツ・レクリエーションの振興」では「みやこスポーツコミッション連絡会議と連携して、スポーツ合宿・大会の誘致に取り組み、交流人口の拡大を図っていく」とある。</p> <p>これは様々なスポーツ競技において、誘致の可能性のあるものとする。</p> <p>本市では毎年、「海の日」宮古港カッターレースが多く市民参加のもと盛大に開催されており、大会には全国各地のカッター部を持つ大学や高校もエントリーをしている。</p> <p>このカッターレースは全国の水産・海洋高等学校でも大会がおこなわれており、全国持ち回りの会場で開催され、200人以上の生徒が参加している。</p> <p>そこで、「海の日」宮古港カッターレース大会開催の実績と経験を活かし、全国水産・海洋高等学校カッターレース大会を誘致できないか。</p>

## 一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月2日(月) 質問順位 4番

質問者 議席番号 20番 田中 尚 議員

質問事項	質 問 要 旨
1 新年度、本市の経営方針について	<p>(1) 基本方針「自然と共に生きるまちづくり」</p> <p>① 「森、川、海」は本市の豊かな自然を表す言葉でもあり、近年の「三陸ジオパーク」「みちのく潮風トレイル」の取組みをもとに、さらに「磨き」をかけるとあるが、具体的な施策が不明と感じる。引用している事例は「観光分野」と理解するが、「磨き」の必要な対象を具体的に例示されたい。</p> <p>② その対象は「観光振興」や持続可能な農林水産業の推進など多様な産業が結び付き「力強く活動するまちづくり」を意味するとも取れるが、だとすると「磨き」はキーワードになる。事業効果を高めるため、用語にあえて「磨き」を引用した市長の見解を伺う。</p> <p>(2) 重点施策</p> <p>(イ) 地域産業の振興</p> <p>① 「強くしなやかな産業構造の構築」は「総合計画」に計上されているものと理解するが、農林水産業は地球温暖化の影響で、今まで以上の取組みが求められている。人口減少の進行する中で、各分野の担い手確保へ、特に重要な課題と対策を伺う。</p> <p>② 林野庁は「都市の木造化」を掲げ、コンクリートから木造化へ、関係省庁との連携を強めている。また、自立可能な農業を目標に「ソーラーシェアリング」事業へ、民間の取組み事例も国内では生まれている。森林資源や本市の自然環境を活用した「ソーラーシェアリング」は自然成長の域を出ていない様に思うが、どうか。</p> <p>(ロ) 賑わいのある中心市街地の形成</p>

- |   |
|---|
| <p>① 旧キャトル跡地は「宮古駅前エリア再整備」事業として「駐車場」（たたき案）計画が示されている。その昔、中心市街地に「ひと」が「集い、歩き、楽しむ」魅力と回遊性が生まれていた旧宮古市では商業施設と宮古病院の存在がポイントだった。現在、駅前には、東側と西側に市営駐車場があり、「駅前エリア再整備」とは言え「駐車場」の追加的な整備は住民の理解が得られにくいと考える。「商業・医療」施設の整備は「賑わいのある市街地形成」に不可欠と考えるが、市長の受止めはどうか。</p> <p>② 要は「宮古駅」を利用する住民の移動であり、公共交通の整備と一体に行われるべきと考える。道路一辺倒の計画だけで無く、少子・高齢化の進行という社会の変化に対応できる観光列車など車両の導入や軌道改良も災害を未然に防止する視点で具体化が必要と考える。市長の認識を伺う。</p> <p>(ハ) 地域脱炭素の実現と地域内経済循環の拡大</p> <p>① 地域内経済循環の到達点と拡大へ「夜間連携太陽光発電所」の位置づけと役割を伺う。</p> <p>② 施設整備では「小規模・分散型」及び「小水力発電所」も重要と考えているが、本市の到達点を伺う。</p> |
|---|